



当社製蒸気タービン・発電機



インドネシア・スマトラ島西部の 地熱発電所建設プロジェクトに参画

インドネシアの電力インフラ整備を支え、経済・社会発展に貢献

世界第2位の地熱資源量を誇るインドネシア。同国のスマトラ島西部の山間地、最寄りの空港から車で約5時間の場所にある、ムアララボ地熱発電所(発電容量85.26MW)が2019年12月に商業運転を開始した。この発電所で生み出されたインドネシア約42万世帯分の電力はスマトラ島西部全域に供給される。住友商事(株)と現地エンジニアリング大手のRekayasa Industri社とのコンソーシアム(共同事業体)が発電所建設をEPC(設計・調達・建設)で一括請負した。当社は住友商事(株)の下でプラント全体のエンジニアリングと主要機器の調達などを担当、川崎工場製の蒸気タービン・発電機と鈴鹿工場製の電動機、TGR※などを納入した。

地熱発電は、地中からの蒸気力でタービン・発電機を回転させて発電するため、化石燃料を使わずCO₂を排出しない。そのため地球温暖化を背景とした環境意識の高まりを受け、世界では地熱発電所の普及が進んでいる。近年経済成長が著しいインドネシアの中には、いまだに電気を利用できない地域があるため、同国政府は電力インフラの整備に向け、地熱発電総容量を現在(2019年)の約2,000MWから2025年までに7,200MWに増やす計画としている。

当社は地熱発電の納入実績が数多くあり、地熱発電用蒸気タービンの世界シェア約40%(2000年から2019年の納入実績)を誇るトップランナーだ。とりわけインドネシアでは19台の地熱発電用蒸気タービンを納入し同国でのシェア50%

(2019年1月時点)を誇る。これらの導入実績などが、最終顧客で独立系発電事業者のPT. Supreme Energy Muara Laboh(以下、SEML社)から評価され受注獲得につながった。

SEML社にとって本案件は、初の地熱発電プロジェクトであり、成功に向けて強い思いを持っていた。そのため、当社がこれまで手掛けた同国での他の地熱発電案件に比べ、仕様や品質、安全などに対する要望の水準が高かった。これらの要望に応え続けた結果、当社はSEML社に認められ良好な関係を築くことができ、お互いに協力しながらチームとして本案件を履行し、納期通りの完工を達成した。

「インドネシアの発展に寄与できたことがとても嬉しい。今後も地熱発電はもとより当社の再生可能エネルギー事業を拡大させ、安全・安心で持続可能な社会づくりに貢献し続けていきたい」と営業担当の本藤さんは喜びと抱負を語った。

※タービン・発電機用統合制御装置



プロジェクトに携わったSEML社、住友商事(株)、当社担当者の皆さん

自動販売機が小型の売店に 「マスク自販機」を神戸の病院に設置

神戸ほくと病院



院内に設置されたマスク自販機



スパイラルラック方式の収納棚

新型コロナウイルス感染症の拡大により、外出時のマスク着用は日常の光景になりつつある。「ウィズコロナ」の新しい生活様式が求められるなか、当社はマスクなどの衛生用品を取り扱える専用の自動販売機(以下、マスク自販機)を開発。6月22日、1号機を神戸ほくと病院に設置した。

「従来マスクは受付窓口で販売されていましたが、繁忙時は職員の手が足りず、販売方法の見直しが求められていました」と話すのは、同病院の福祉用品、物販設備管理を担う(株)エイチ・ジーの堀越代表取締役。当社のマスク自販機はマスクはもちろん、入院患者に必要なスリッパ、歯ブラシなど、さまざまな物品を1台で販売できる。人手不足に対応でき、小型の「無人店舗」として活躍できる点なども顧客ニーズと合致した。

当社は、国内の飲料自動販売機で5割強のシェアを占める最大手だ。これまでもコンビニ店舗内で自動販売機を使った夜間無人営業を提案するなど、人手不足等の社会課題の解決に貢献してきた。「生活必需品であるマスクを、いつでもどこでも手軽に入手できる。ウィズコロナ時代、当社ができる新たな社会貢献を考えました」と商品企画部の佐藤 大輔さんは話す。

マスク自販機は、既存機種である物品・食品自動販売機を改良した。ボタンや返却レバー、商品の取り出し口などに抗菌処理を施し、より衛生面に配慮した。収納棚には、ピッチ(間隔)を調整すれば陳列できる商品のサイズや数を自在に変えられる、スパイラルラック方式を採用している。また、高温環境下における商品の劣化を防ぐために庫内温

度を18℃に保ち、夏場の冷やしマスク販売にも対応する温度設定の機種も揃える。

既に公共交通機関や小売業界などから、複数の引き合いを受けている。当社営業の竹岡 慎一さんは「強みは、さまざまな物品を搭載できる汎用性。人との接触機会を減らし、安全・安心に商品を提供できる顧客価値を武器に、マスク自販機の普及を目指す」と今後の抱負を語る。

たとえばこんな SDGs



11 住み続けられるまちづくりを

●目標11

住み続けられるまちづくりを

当社はマスク自販機の開発・普及を通して、手軽に衛生用品を手に入れられる環境を構築し、感染症拡大防止など人々の安全・安心な生活の実現に貢献します。



富士電機 関西支社 営業第六部と食品流通本部 営業統括部 商品企画部の皆さん



*本誌に記載されている会社名および製品名は、それぞれの会社が所有する
商標または登録商標である場合があります。